

試驗場所ニ於ケル水溫比重

日	時	天候	風向	風力	潮	夕	氣溫	水溫	比重	備	考
昭和六年五月十四日	午前十時半	晴	南	二	高		二六、〇	二五、〇		赤沼式B號比重計ニテ測定出來ズ	
五月十五日		晴	北	五	高		二五、〇	二五、〇		強雨ニ付キ中止	
五月十六日	午前十時	晴	南	二	低		二四、〇	二三、〇			
五月十七日	午後二時	晴	西北	三	高		二六、六	二七、五			
五月十八日	午前十一時	晴	東	三	低		二四、六	二三、三			
五月十九日	午後二時	晴	南東	三	高		二五、五	二四、五			
五月二十日	午後五時	晴	南	二	低		二三、四	二〇、〇			
五月廿一日		晴	西北	三	高		二六、六	二六、五		強雨ニ付キ中止	
五月二十二日	午前十一時	晴	西北	三	高		二六、六	二六、五			

二、海人草養殖試驗

趣旨

本縣沿岸ニハ藥用トシテ使用セラレツ、アル海人草ノ棲息比較的多ク沿岸町村民ノ副業トシテ採集販賣セラレ價高ク相當ノ收益ヲ揚ゲツ、アリ然レドモ之レガ繁殖保護ノ法行ハレズ其ノ儘放置スルトキハ生産減

少ノ憂アリ

本場ニ於テハ本年度ヨリ種苗ノ移植及投入石並磯掃除ノ方法ニ依リ之レガ繁殖試験ヲ行ヒ繁殖保護ヲナ  
斯業ノ普及ヲ計リ生産ヲ増大セシメ當業者ノ副利民福ヲ計ラントス

(一) 試験施行期日

イ、國頭郡羽地村稻嶺地先

昭和六年五月中五日間 全年八月中三日半分 計八日半

ロ、中頭郡勝連村平敷屋地先

昭和六年七月中五日間 全年九月中三日間 計八日間

(二) 試験場所

イ、國頭郡羽地村稻嶺地先

羽地村稻嶺地先ニシテ岸ニ近イ所ハ底質殆ンド砂泥ナリ岸ヨリ十町位ノ所ハ干潮時水深三尺一尋半  
底質砂泥多ク岩石散在シほんだはら、しらも、うみうちわ等ト共ニ海人草多棲セリ西方ニ奥武島北方  
屋我地島アリテ波浪比較的靜穩ノ様ナリ海水外海連帶セル爲干満ノ都度交換セラレ海人草養殖場トシ  
適地ト認メラル此處ニ一萬坪ヲ區劃シ標杭ヲ建テ試験地トナス

ロ、中頭郡勝連村平敷屋地先

勝連村平敷屋ノ南方沿海ニシテ水深一、二尺内外ノ所ヨリ海人草ノ棲息セルヲ見受ラル海岸ヨリ五十  
位ノ所ハ底質砂礫ニシテ所々ニ珊瑚礁アリ之等ニほんだはら、しらも等ト共ニ海人草棲息シしやこ介

他卷貝類等モ棲息ス水深四尺乃至一尋半位海水ハ干満ノ都度異動シ北方ノ宇平敷屋ハ高所ニ在ルヲ以テ該地ヨリハ一目ニテ見下サレ監視ニ便ナリ此處ニ海岸ト平行ニ二百間沖合ニ五十間面積一萬坪ヲ區劃シ標杭ヲ建テ試驗地トセリ

ハ、八重山郡石垣町釜石地先

前年度石垣島漁業組合ト合議ノ上麒麟菜養殖試驗地ト定メクル地區内ニシテ海底殆ンド枯死珊瑚ヲ以テ成リ所ニ砂礫交リノ箇所點在ス麒麟菜ほんだはら等ノ藻類棲息シ稀ニ海人草ノ棲息セルヲ見ル海水ハ干満ノ都合換水セラレ海人草養分ノ供給充分ナラント認メラル

(三) 試驗方法

本試驗ハ本年度創始ノ事業ニシテ種苗ノ移殖ト投入石及磯掃除等ニ依リ種苗ノ着生ヲ容易アラシメ一方漁業組合ト協定シ三ケ年間採集ヲ中止セシメ尙各試驗地ニ監視員ヲ置キ保護ヲ充分ナラシメタリ  
種苗ハ石塊ニ海人草ノ着生セシモノニシテ採集運搬ノ際ハ海水ヲ浸セル仄ヲ覆ヒ日光ノ直射ヲ避ケシメツ、操業シ試驗地ニ投入セリ

投入石ハ海濱ニ散在セル重量五―十斤位ノ石ニシテ汚レノ付カザル面粗ナルモノヲ使用シ投入ノ際ハ胞子ノ着生ヲ容易ナラシムルト種苗ノ安定ヲ期スル爲海士ヲ潜水セシメ種苗ノ周圍ニ置カシメタリ此際不用雜藻ヲ除去シ胞子ノ着生面積ヲ増大セシムルニ努メタリ

(四) 各試驗地ニ於ケル種苗及投入石ノ投入數量

1、國頭郡羽地村稻嶺地先

種 苗 傳馬船 十一隻

刳 舟 二十隻

投入用石 傳馬船 二五隻

刳 舟 二六隻

2、中頭郡勝連村平敷屋地先

種 苗 刳 舟 六一隻

投入用石 全 四七二隻

3、八重郡石垣町釜石地先

種 苗 刳 舟 九隻

該地ニテハ經費並ニ石少キ爲種苗ノ移殖丈ニ止メタリ

(五) 經 過

昭和六年十一月勝連村平敷屋地先ヨリ一個ノ投入石ヲ取り揚ゲ檢セシニ一分位ニ伸ビタルモノ數本ト細ク丈出シテ別ノ藻類ト見分ケノ付クモノ五 六十本着生セリ

昭和七年一月十二日右同試験地ノ一般成績ヲ調査シタルニ昨年十一月ノ時化ノ爲投入石ノ約三割ハ投入位置ヨリ距レ居ルモ投入石ノ六割位ハ海人草着生シ中ニハ重量五斤位ノ石ニ六十本着生セシモノアリ着生セシ海人草ノ大キサヲ見ルニ一寸七八分成長シ太枝ヲ二三本出シタルモノアレドモ其ノ數僅カニシテハ細枝出デ他ノ藻類ト見分ノ付ク程度ノモノ大多數ヲ占ム時化ニ遭ヒ種苗ヨリ遭ガカレルモノモ種子着生後

レシモノ、如ク着生セシモノモアリ一般ニ種苗ニ近キモノ程多數着生シ遠ザカルニ從ヒ其ノ數ヲ減ズル様ナリ

次ギニ投入石壹個ニ着生セシモノ、成長度ヲ記スニ次ノ如シ（勝連）

調査年月日	大	キ	サ	成長度	備	考
昭和六年十月五日	一分、六厘、四厘ノ三本			六厘		
全 十月十五日	一分六厘、一分二厘、一分			一分一厘—一分四厘		
全 全月三十一日	二分四厘、二分、一分五厘			一分四厘—一分六厘		
全 十一月十三日	二分六厘、二分二厘、一分七厘			右 同		
全 全月二十六日	二分六厘、二分二厘、一分七厘					
全 十二月十日	一分五厘、一分一厘ノ三本					
全 十二月三十日	一分五厘、一分一厘					
昭和七年一月七日	一寸宛二本					
全 月二十五日	一寸一分、一寸五厘			五厘—一分		
全 三月一日	六分、五分、四分、二、五分五分、二分五厘					
全 三月二十一日	八分、六分五厘、四、五分、四分、六分、二分五厘			五厘—二分		

國頭郡羽地村稻嶺地先モ右ト略同様ナレバ省畧ス

八重山郡石垣町地先ノモノハ用務ノ都合ニ依リ其ノ結果ヲ報告スルニ至ラズ

低水温トナリシ爲カ十三日以後全ク伸バズ  
十一月迄調査ノ物脱落セシ爲別ノ物ニ依リ  
調査  
全ク成長セズ  
十二月調査ノモノ波浪ノ爲所在不明移植海  
人草ヲ一寸宛ニ切斷繩ニ挾ミ垂下シ成長度  
ヲ見ル  
前回ノモノ腐敗セシ爲更ニ別ノ投入石ニ依  
リ調査

### 三、高瀬貝廣瀬貝成長度試験

本試験ハ前年度ヨリノ繼續試験ニシテ試験場所ハ前年度ト箇所ナリ

#### (一) 試験方法

前回試験ノ通り標識放養セル時ハ其ノ成長度宜シキ様ナレモ介類ハ四方ニ逸散シ且ツ採集困難ニシテ成績調査上甚ダ不便ナルヲ以テ今回ハ「コールター」ヲ塗抹セル金網ヲ以テ放養區域三ヶ所ヲ設ケ一區劃ノ面積トナシ放養數量ノ多少ニ依リ成長率ノ差ヲ講究セン爲一區劃ニ高瀬介廣瀬介ヲ同數宛ニテ三〇〇、四〇〇、六〇〇計一、三〇〇個ヲ放養セリ放養稚介ハ殻徑二寸以下ノモノニシテ放養寸法ハ高瀬介殻徑最大一寸八分最小一寸一分、廣瀬介最大二寸最小一寸一分ノモノ使用セリ各區域ニ於ケル放養數量平均殻徑、及平均重量次ノ如シ

二月		三月	
上旬	中旬	上旬	中旬
一五、六〇	一七、三三	一八、〇〇	一九、六〇
二〇、〇〇	一九、二元	二五、〇〇	二〇、五元
一九、一八	一八、六四	一九、一八	一九、一八
一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三